

鳴門教育大学附属幼稚園

学校関係者評価報告書

(平成 30 年度)

平成 31 年 3 月

学校関係者評価委員会

目 次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	1
I 学校関係者評価結果	3
II 評価項目ごとの評価	5
評価項目 1 教育課程・指導	5
評価項目 2 保健安全管理	5
評価項目 3 組織運営	6
評価項目 4 研究と研修	6
評価項目 5 教育環境整備	7
評価項目 6 教育実習	7
参考：学校の現況及び目的	9

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

はじめに

本報告書は学校評議員，大学教員，附属学校部会の組織体として連関する公立幼稚園園長，保護者等の学校関係者で構成された鳴門教育大学附属幼稚園学校関係者評価委員会が附属幼稚園の教育・研究活動の観察及び園長をはじめとする教職員との意見交換等を通じて同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し，その結果を取りまとめたものである。

1 学校評価の目的

学校評価は，次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が自らの教育活動その他の学校運営について，目指すべき目標を設定し，その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより，学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により，適切に説明責任を果たすとともに，保護者，地域住民等から理解と参画を得て，学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が，学校評価の結果に応じて，学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより，一定水準の教育の質を保証し，その向上を図ること。

2 学校評価に係る実施スケジュール

平成30年5月 第1回学校関係者評価委員会（委員長の選出，平成28年度自己評価に係る目標及び評価項目について，学校評価に係る実施スケジュール等）。
平成30年5月 学校関係者評価委員による施設見学，保育・園行事等の参観及び教職員～31年3月 との意見交換（運動会，園外保育，幼児教育研究会等）
平成31年3月 第2回学校関係者評価委員会（自己評価の結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等）。

3 学校関係者評価委員会委員（平成31年3月現在）

木下 光二：鳴門教育大学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻
教員養成特別コース 教授

坂田 大輔：徳島大学教職教育センター 教授

森 大樹：附属幼稚園みどり会会長

○湯地 宏樹：鳴門教育大学大学院学校教育研究科人間教育専攻幼年発達支援コース 教授
(50音順，○は委員長)

4 本評価報告書の内容

(1) 「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では、「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において、評価項目 1 から 6 のすべての評価項目の内容を総合的に判断し、4 段階評価で記述した。

【4 段階評価の基準】

- A 十分達成されている
- B 達成されている
- C 取り組まれているが、成果が十分でない
- D 取組が不十分である

また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併記した。

(2) 「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では、評価項目 1 から 6 において、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」（4 段階評価）及びその「評価結果の根拠・理由」を記述した。

(3) 「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ 学校の現況及び目的」を転載した。

5 本評価報告書の公表

本報告書は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。またウェブページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/schools/06/002.html>) への掲載を通じて、広く社会に公表する。

I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属幼稚園の学校関係者評価は内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断した。

主な優れた点について、以下に列挙する。

- 「1 教育課程・指導」においては、文部科学省指定研究開発学校として科学的思考力を促す幼小接続の教育課程を先駆的に開発し作成された教育課程・指導計画「生活プラン」に基づき、不断にカリキュラム・マネジメントを行っている。とくに幼小中一貫型教育プラン「幼小連携の科学的思考力涵養プログラム」における幼児の具体的な姿（「A 発見と問題解決」「B 言葉への関心」「C 数量と図形（平面・立体・空間）」「D 協同的感性」）は、平成29年改訂の幼稚園教育要領において新たに明示された「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をより具現化させた汎用性の高いものであり、全国的にみても極めて先進的な取り組みである。
- 「2 保健安全管理」においては、指導計画に基づいて保健指導を実施し、園全体の保健指導体制が図られているとともに、家庭と連携して保健指導が行えるよう保護者向けの講話や「ほけんだより」等による情報提供を積極的に行っている。園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査によって環境安全管理、消毒、インフルエンザ等の予防に努めている。危機管理対策については、安全点検表の改善に努め、「平成30年度安全管理計画―危機管理マニュアル―」に基づき、避難訓練の実施、安全点検の実施、救急法実技講習への参加など安全管理の強化が十分に図られている。
- 「3 組織運営」においては、園務分掌にしたがって職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図られるよう配慮するとともに、毎月の定例職員会議などで共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるように工夫している。とくに今年度は、施設や遊具の塗装などを委託したり仕事の共同作業化や処理ソフトによる効率化を図ったりするなど、職員の負担軽減のための方略に努めている。
- 「4 研究と研修」においては、保育の質向上のために「遊誘財」の視点で研究に取り組み、定期的に園内研究会・合同研究会を行い、幼児教育研究会や公開保育・研究会には県内外から多数の参加者があった。県・市教委主催の研修会などへの講師派遣、県新規採用研修・新任園長研修会における指導、教員の県内外研修会への講演講師の派遣（大阪府、兵庫県、岡山県などの教育委員会等他）等、県内外における講演会講師や実践指導を精力的に行っている。また地域住民を対象としたオープンスクール、教育講演会、PTA 研修会、子育てに関する講演会など研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命を十分に果たしている。

- 「6 教育実習」においては、ふれあい実習、附属学校園観察実習、附属校園実習・教員インターンシップ、附属学校園実習、「基礎インターンシップ」など年間を通して学内外の実習生を受け入れ、実習指導を行っている。これらの実習は「実地教育計画表」に基づき、教育実習主任をはじめ各学級の担任からきめ細やかな実習指導が行われている。さらに「自己評価観点表」によって実習生自身のカリキュラム・マネジメント力を促す工夫がなされている。

主な改善を要する点について、以下に列挙する。

- 「3 組織運営」においては、今年度はとくに園務の能率化・省力化が図られ、外注できるものは業者に委託するなど職員の負担軽減に努めてきた。来年度から働き方改革法の施行に伴い、5日間の「有給休暇取得」の義務化、時間外労働の削減、労働時間の把握など仕事の効率化・多様化がいつそう求められよう。本園だけの問題ではないが、働き方改革を推進しながら、いかに保育の質を維持していくかが今後の課題となるだろう。本園の使命として教育・研究活動を一層充実・発展させるためには、専任教頭制、教員定数の増員など設置者側に要請したい。
- 「5 教育環境整備」においては、今年度は家禽舎並びに門扉の塗装、園庭南側のブロック塀の改修工事など、施設・設備の充実が行われた。しかし、現在の園舎は昭和44年に建築されたため、老朽化が目立つのはやむを得ない。幼児の安全のためにも園舎の全面的な改修を早急に行っていただくよう設置者側に要請したい。

II 評価項目ごとの評価

評価項目1 教育課程・指導

【評価結果】以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の教育課程・指導計画である「生活プラン」を作成し、月別指導計画シート等を活用して常にカリキュラム・マネジメントを行っている。平成30年度教育関係者によるアンケート集計結果（別添資料5-①）の「1. 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導について」においても100%よい（「大変よい」74.7%「よい」25.3%）という結果が得られている。平成30年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（別添資料1-①）、平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書（別添資料1-②）においても高い評価が得られていることから優れた取り組みであると判断される。

観点1-2 幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

平成29年に改訂された幼稚園教育要領においては小学校教育との連携・接続が強化されているが、本園はすでに文部科学省指定研究開発学校として先行的に取り組んでおり、現在は幼小中一貫型教育プラン「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」によって、幼小の合同保育・授業の展開と改善が積極的になされている。とくに「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」における幼児の具体的な姿（「A 発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「B 言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「C 数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「D 協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」）を可視化する試みは、幼稚園教育要領における「幼児期の終わりまでに育てたい姿」をより充実・発展したものととして優れた取り組みであると判断される。

評価項目2 保健安全管理

【評価結果】以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

保健計画の作成・実施状況については、指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断、保健管理や保健指導を実施している。食育については、おやつ部屋や食物アレルギーの対応などの工夫や研修による資質向上に努めている。保護者に対しての講話や「ほ

けんだより」(別添資料2-①)等で情報を提供するなど、保健指導の協力を得るための工夫をしている。園の環境衛生については、砂場や遊具などの消毒やインフルエンザ等の感染症の流行時期の前に各部屋に塩素系の除菌剤を置くなど感染予防にも努めるとともに、学校薬剤師による指導や定期的な検査によって細菌・水質等園内の環境安全管理に努めているなど優れた取り組みであると判断される。

観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

危機管理対策については、「平成30年度安全管理計画―危機管理マニュアル」(別添資料2-②)を作成し、とくに今年度は点検を明確かつ効率的にできるように「安全点検表」の改善に努めている。避難訓練の実施、2人体制の園内安全点検、救急法実技講習への参加など、安全管理の強化が十分に図られていることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目3 組織運営

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点3 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

園の運営・責任体制については、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成し、主任を責任者として配置し、園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。職員が行っていた施設や遊具の塗装などは外注したり仕事の共同作業化と処理ソフトの購入等の改善を随時行ったり、職員の負担軽減のための方策にも努めている。職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図られるよう配慮するとともに、毎月の定例職員会議などで共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるように工夫していることなどから優れた取り組みであると判断される。

評価項目4 研究と研修

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況

保育の質向上のために「遊誘財」の視点で研究に取り組み、定期的に園内研究会・合同研究会を行い、年間5回の公開保育・研究会には、県内外から52名の参加者があった。今年度は幼児教育研究会を鳴門教育大学(高島キャンパス)ではじめて開催し、「遊誘財から豊かな遊びを創り出すためにIV―園環境や保育実践はいかに創られるか―」(別添資料4-①)をテーマに研究発表、講演、分科会等を実施し、307名の参加があった。その他、文科省等主催研修、全附属幼稚園部会、県・市教委主催の研修会など園外の研修会等へ多数参加しているなど、園内外における研修の実施及び地域への貢献を積極的に行っている

と判断される。

観点4-2 幼児教育関係者への研修支援等の状況

徳島県教育委員会の各委員会委員，合同研究会の開催，徳島県教育委員会主催の研修会への講師派遣，県新規採用研修・新任園長研修会における指導，教員の県内外研修会への講演講師の派遣（大阪府，兵庫県，岡山県などの教育委員会等）など，全国規模の研究大会や県内外での講演や実践指導を精力的に行っており，先端的な情報を県内外に広め，研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命を十分に果たしていると判断される。なお，今年度から徳島県教育委員会の主催する法定研修要項には「協力 鳴門教育大学附属幼稚園」と明記されるなど本園の貢献が目に見える形で発信されるようになっている。

観点4-3 地域住民への貢献

10月に本園において地域住民を対象としたオープンスクールが実施され，172人の参加があった。教育講演会では，山下一夫学長を講師に「子どもの心と大人の知恵—あせらずぼちぼちと—」と題して開催され，約170人の参加があった。その他，PTA研修会や子育てに関する講演会を実施するなど，地域住民に対しても子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割を十分に果たしていると判断される。

評価項目5 教育環境整備

【評価結果】 以下の内容を根拠として，4段階評価中の「B 達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点5 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

今年度は家禽舎並びに門扉を塗装し，園庭南側のブロック塀の改修工事を行うなど，施設・設備の充実が行われた。平成30年度教育関係者によるアンケート集計結果（別添資料5-①）では「園の環境衛生や危機管理体制について」91.4%「安全・維持管理のため環境整備について」95.4%がよいと回答しており，平成30年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（別添資料1-①）では「環境整備について」94.4%がよく整っていると評価している。しかし，現在の園舎は昭和44年に建築されたもので，接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ，配管などの老朽化が目立つことから全面的な園舎改修が必要であるが，予算の関係上で実現していない。

評価項目6 教育実習

【評価結果】 以下の内容を根拠として，4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

今年度は、ふれあい実習（学部1年生・大学院生）、附属学校園観察実習（学部3年生・大学院生1名）、附属校園実習・教員インターンシップ（学部3年生・大学院生）、附属学校園実習（学部3年生・大学院生）、「基礎インターンシップ」（大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻教員養成特別コース1年生）を行った。附属学校園実習においては、他大学から2名の学生を受け入れた。これらの実習は、実地教育計画表（資料6-①）に基づき、教育実習主任をはじめ各学級の担任からきめ細やかな実習指導のもと、自己評価観点表（資料6-②）による自己評価によってカリキュラム・マネジメント力を促す工夫がなされているなど優れた取り組みであると判断される。なお、平成30年度幼稚園評価アンケート結果報告書（別添資料1-②）においても、教育実習生に対する肯定的な意見がみられている。来年度からは大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻（教職大学院）の実習として「基礎インターンシップ」に加えて「総合インターンシップI・II」の実施を予定しており、教育実習園としての役割はますます大きくなる。

参考：学校の現況及び目的

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級，4歳児2学級，5歳児2学級
保育課程 2年保育，3年保育
- (4) 幼児数及び教員数（平成30年5月1日）
幼児数130人 教員数10人（正規教員）

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ② 地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ① 自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ② 健康でたくましい心身を養うこと。
- ③ それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④ 身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養う
- ⑤ 喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥ 創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3)めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4)平成30年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ① 新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ② 「遊誘財」研究の成果を生かし、実践の質的向上を図る。
- ③ 大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5)評価項目

- ① 教育課程・指導
 - ・ 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
 - ・ 科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）作成に関する取り組み状況
- ② 保健安全管理
 - ・ 保健計画の作成・実施の状況，園の環境衛生の管理状況
 - ・ 危機管理対策の見直しと強化
- ③ 組織運営
 - ・ 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど，園の明確な運営・責任体制の整備の状況
- ④ 研究と研修
 - ・ 幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
 - ・ 教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
 - ・ 地域住民への貢献
- ⑤ 教育環境整備
 - ・ 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況
- ⑥ 教育実習
 - ・ 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況